

国見町小坂地区

1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

<大豆の高単収・高品質化>

- 排水対策の徹底
- 計画的なブロックローテーションの実施
- 体系的な難防除雑草対策

ブロックローテーション

排水対策

高単収・高品質化

雑草防除

2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【作付面積】水稻：36.2ha、大豆：7.3ha(R6)
- 基盤整備を契機に、大豆の作付開始。
平成28年には最大14.1haまで作付拡大していたが、収量(単収)が安定せず面積が減少。令和3年度以降は作付面積を徐々に拡大5.4ha (R3)→7.3ha (R6)。



3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

<計画的なブロックローテーション>

- 大豆の連作障害を避けるため、計画的なブロックローテーションを実施(大豆作付面積の25%)。

<難防除雑草対策と排水対策の徹底>

- ほ場準備と並行して額縁明きよ、ほ場内明きよを施工、アップカッターによる畝立施肥同時播種及び適期中耕・培土の実施
- 帰化アサガオ類、アレチウリ等に対する体系防除の実施



播種・施肥同時作業(左)、中耕・培土(右)

4 取組成果

<高位安定化を実現>

- R6(2/13現在)は単収205kg/10a、全量1等。
R5実績は単収113kg/10a、上位等級(1、2等)82%。

<新技術導入>

- アップカッターの導入(R6)により初期生育が確保され、生産者の栽培管理意欲が向上。



播種日から3週間後の出芽の様子左(R5)、右(R6)

5 課題（7年度のポイント）

- R6年度は、生育初期に断続的な降雨が無く、アップカッターの湿害対策としての実証効果は十分に確認できなかったため、排水対策の効果について引き続き検討を行う。
- 中耕・培土(7月上旬)でイネ科等の発生を抑えることができたが、その後、アレチウリ等の難防除雑草が繁茂したため、手除草で対応した。このため、「畝間・株間処理」に向けて、新たに吊り下げ式散布機等を導入を検討し、難防除対策及び作業能率の向上を図る。